

What's? 静岡 DWAT

ディーワット

令和3年7月伊豆山土石流災害での活動報告

災害時に福祉・介護の視点から支援活動を行う専門職チームDWATをご存じですか？
令和3年7月に起こった熱海市伊豆山土石流災害においても、避難所で被災者を支援しました。
静岡DWAT登録員の杉山さん、臼井さん、山口さんに実際の活動内容や、
そこで感じたDWATの意義などを聞きました。



DWATとしてどのような活動をされましたか？

杉山 私は、被災者の皆さんがニューフジヤホテルから金城館、ウオミサキホテルへ引っ越しの際に、介助が必要な方のサポートをしました。静岡県は横に広いので、静岡DWATを東部・中部・西部と支部を分けていて、私どもの施設が

東部の拠点となっていてます。今回、担当支部内でのことでもあり、できることはさせていたかどうかという気持ちでした。私自身、初めての活動だったので手探り状態で不安でしたが、東部だけでなく県内からみなさん集まってくれて、ありがたかったです。

臼井 保健師の方と一緒に要支援者の部屋を回り、健康チェックや困りごとの聞き取りをしました。部屋にこもりっぱなしになってしまいう方も多かったため、体を動かしてもらうために健康体操を行いました。後半は、避難所を出た後の行き先の聞き取りを行いました。被害の申請などの方法や、相談先がわからないと

いう方もいたので、掲示物から得た情報を伝えることや、現場にいる市役所の方への橋渡しも重要な仕事でした。

山口 私は、被災者の方の精神面が心配だったので、精神科医療の団体、医師と一緒に回らせてもらいました。普段は、すでに医療にかかっている方や、障害者手帳を持っている方の生活支援を担当していて、災害時のメンタルケアは初めてのことでした。どこまで立ち入って良いのか、どのように支援に繋がったら良いのか悩みましたね。後半は、8月1日に立ち上げられた「福祉なんでも相談室」で相談業務を担当しました。なんでも、というところを、逆に何を相談して良いかわかりづらいかなと感じたので、チラシを作って、具体的にどんな話を聞いてくれるかを周知することにも力を入れました。

大変だったことや印象に残っていることは？

臼井 支援に入ってから最初の

頃は、避難している方々にとって「DWATって何？」という存在でした。徐々に認識してもらえようになり、お礼や声をかけていただき機会が増えていき安心しました。それと、DWATのチームのメンバー同士も最初は「どなたですか？」という状態。災害時の緊張感に加え、ごちなさがありました。同じ福祉分野とはいえ、障害者福祉に携わっている方、介護施設に勤めている方など、立場や考え方も様々だったので、意識を共有していくのは大変でした。

山口 私は、時間の経過によるニーズの変化が印象に残っています。最初の避難所だったニューフジヤホテルでは、物資は衣類や食料、相談は避難所でのお風呂の入り方をどうすれば良いかという、今、ここでのニーズが主でした。活動の後半は、避難所を閉鎖し、多くの人が自宅や応急的な住まいに移る時で、介護保険はこのケースで使えませんがという相談や、家電が欲しいなど、今後の生活に必

要なことが出てきました。

杉山 私は、ある方を健康体操にお誘いしたのですが、「とてもそんな気分にならない」と最初は断られたんです。それでも、支援に入る度にお誘いしていたら、いつしか参加してくれるようになりました。後半は毎日参加してくれました。雰囲気も明るくなって、声かけ

して良かったと思いました。

今回の経験で感じたDWATの意義や価値、今後必要なことは？

臼井 職場が同じ熱海だから、自分にも何かできないかという思いで参加しました。1つでも2つでも関わることがあったのは大きかったし、福祉

職として大切な活動だと思っています。災害が起こって改めて、DWATの重要性を実感しました。

山口 私は、日頃の業務の中で多職種と連携を取ることが多く、どの職種がどういう仕事をしているという知識が多少なりともありました。そのため、こういうことはこの職種の方に相談

すると良いかなと思いつくことができ、繋げやすかったように思います。逆に、今回経験したことも通常の業務で生かせる気がしています。

杉山 避難所の福祉は、日頃の延長線にあるということですね。平時に行っている、相手の立場に立って考え寄り添うことが有事でも大切だと感じました。家

静岡DWATとは？

DWAT=Disaster Welfare Assistance Team.災害福祉広域支援ネットワークの福祉関係団体に所属する福祉施設等の職員で所定の研修を修了した者の中から、1チーム5名で編成される福祉専門職チーム。災害関連死や2次被害を防ぐため、避難所等で福祉・介護の専門的な視点で支援活動を行う。静岡DWAT(静岡県災害派遣福祉チーム)では、災害発生後、被災した市町から静岡県に派遣要請があると、ネットワーク事務局がチームを編成して被災地へ派遣。被災した市町が指定する避難所や福祉避難所で支援活動を行う。チームは社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員をリーダーに、保育士や精神保健福祉士、生活相談員、介護職員等で編成する。

福祉の“中の人”

様々な福祉の活動について、具体的な内容や魅力を、実際に活動している人に直撃!リアルな声をお届けします。

case.16
熱海市民生委員
児童委員の
皆さん

左から:谷口成伸(せいしん)さん、千葉久美子さん、高橋富江さん、
櫻井順子さん、野澤和雄さん、當摩(とうま)達夫さん



「向こう三軒両隣」の精神を大切に」

令和3年7月に熱海で発生した「伊豆山土石流災害」。自らも避難した先のホテル内での住民のケアや、思い出の品返却のサポートなど、地元民生委員による被災者支援活動について伺いました。

Q 発災後、どのような活動をされましたか。
私たち民生委員の中にも被災した人がおり、まだ家にいた方に声をかけてまわりながら、一緒に避難しました。ホテルの中では民生委員として住民のケアに取り組みました。ホテルから、立ち入り禁止エリアの自宅に戻ってしまつた方を迎えに行つたこともありました。避難所の外にいた民生委員は、支援物資の調達やホテル間の引越などの支援を行いました。ほかに、災害現場などに残された写真や物品をボランティアがきれいに洗浄してくれましたので、持ち主へ返却するサポートもしました。

た。亡くなった旦那さんの趣味だった写真のフィルムを喜んで持って帰った方、もらった文章に関する大事な書類が見つかった方など、「これが出てきて良かった」という声を多く聞きました。岸谷(きだ)に(地区では、地元介護タクシー事業所や復興支援の移動式カフェなど、いろいろな人がつながり、住民がコーヒーを飲みながら「元気があった?」などと会話を交わす憩いの場が実現しました。

Q どんな苦労がありましたか。
ホテルは、エアコンなど住居設備は快適でしたが、プライバシー保護や感染対策を重視して世帯ごとに部屋が分かれていたため、孤立しがちな状況がありました。お年寄りや介助が必要な方の様子を知らたい時は、まずフロントから電話をかけてもらい、本人の許可が取れ

たら部屋を訪問したりロビーに出てきてもらうというように、「コミュニケーションを取るのに手間がかかりました。また避難した人以外はホテルの中に入らず、自身も被災者である民生委員の負担が大きくなつてしまったことも、もどかしかったです。

Q 今回の経験で感じたことは?
地域とは本来、「向こう三軒両隣」で成り立つものです。一人でできることは限られているからこそ、民生委員は自分をサポートしてくれる人を作ることが大切だと改めて感じました。また、様々な専門職の方が支援に来てくれましたが、民生委員相手だから話せることがあるかもしれせんし、外部支援者が撤退した後も地域を見守り続ける立場としても、専門職の方々と協力し合うて支援を行うことが必要だと感じました。

や家族を失い、気持ちがとても落ち込んでいる被災者にどれだけ寄り添えるか。そして、長期にわたって不自由な生活をしていく要支援の被災者に対してサポートできるか、福祉の専門職としての役割が発揮される場だと思います。

山口 同じ相手を見たとしても、医師、保健師、福祉など立場によって気になるポイントが異なります。福祉

の視点ならではの気になるところに気付くことで、できる支援があるはずですが、福祉は含まれる分野が幅広いので、DWATの中で気付けることも幅広くありません。災害時だから何か特別なことをするのはなく、それぞれが自分の普段の経験を生かして活動することが重要になると思います。

白井 確かに、日頃の積み

重ねが生かされたように思います。今回、被災者にとも違った様子はないかという視点で動いていまして、これは普段から施設で大切にしているからできたのだと思います。それと同時に、有事の際にはいろいろな混乱が起こるので、平時の時にどれだけ準備できているかが大切だと感じました。例えば、日頃からお互いが顔見知りになっておけば、



1.保健師などと避難所を巡回し、健康状態や困りごとを把握します。
2.体力低下の防止と気分転換を目的に健康体操を実施しました。
3.福祉なんでも相談室で避難者の不安に寄り添います。

災害時は自己紹介の必要なくスツと活動に入れます。今後は日頃行われるDWATの活動にできる限り参加して、繋がりを作っているようにしたいと思います。

杉山 現在、全ての都道府県でこうした福祉のチームの設置が進められています。今回の経験で必要性和同時に頼もしさをDWATに感じたので、啓発活動を積極的に行っていききたいと思っています。

静岡DWATとの共同訓練や出前講座も行っています。

[問合せ先] 静岡県災害福祉広域支援ネットワーク事務局 / 社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
福祉企画部経営支援課 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館3F 静岡県社会福祉協議会内
TEL.054-254-5231 FAX.054-251-7508
✉ s_dcat@shizuoka-wel.jp



社会福祉法人蒼樹会
特別養護老人ホームさつき園
理事・施設長 杉山弘年さん

[活動期間]
7/18~21、8/7~9、14、31の9日間
+9/6、11、13の健康体操3日間



社会福祉法人共済福祉会
相談支援事業所リベルテ
社会福祉士・相談支援専門員
山口幸子さん

[活動期間]
7/15~17、8/3~6の7日間



社会福祉法人熱海いでゆの園
特別養護老人ホーム姫の沢荘
介護福祉士・介護支援専門員
白井淳兵さん

[活動期間]
7/14~16、31、8/18~19の6日間